

近畿大学 情報学部

令和6年度 自己点検・評価報告書

KDIX 数理・DS・AI 教育プログラム

(応用基礎レベル)

令和7年4月

1. 自己点検・評価の実施

情報学部にて実施している「KDIX 数理・DS・AI 教育プログラム（応用基礎レベル）（※）」について、情報学部自己点検・評価委員会が自己点検・評価を行った。

※令和5年度認定（認定の有効期限：令和11年3月31日まで）

2. 自己点検・評価の対象科目

自己点検・評価の対象の科目は以下の通り。

「確率統計」

「データリテラシー入門」

「基礎線形代数学1」

「基礎微分積分学」

「コンピュータ基礎」

「データ構造とアルゴリズム」

「プログラミング基礎1」

「IoT」

「機械学習概論」

「技術と倫理」

「社会情報学実習1」

「社会情報学実習2」

3. 点検項目と評価

実施しているプログラムについて、以下の項目で自己点検・評価を行った。

- ・履修、修得状況
- ・学修成果
- ・学生アンケート等を通じた学生の内容理解度
- ・履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

4. 自己点検・評価結果

点検項目	点検結果
履修、修得状況	情報学部は、令和4年度の開設で学年進行中であり、その中でプログラムを開始している。1・2年次に配当されている授業科目でプログラムが構成されているため、令和5年度後期後から修了者を排出している。プログラムの状況として、入学定員330名に対して令和4年度入学生は63名（昨年度より+9名）、令和5年度入学生は25名が修了しており、令和6年度入学生は86名が修了見込みである。プログラムを構成する授業科目の中に、情報学部内の選択

	科目「データリテラシー入門」「機械学習概論」が含まれていることから、履修者数にバラつきがあるため、認定教育プログラムであることを丁寧に説明して、学生の履修・修得率を向上させていきたい。
学修成果	モデルカリキュラムの各項目を「機械学習概論」「IoT」「プログラミング基礎1」などを学ぶ科目群で取り扱い、基礎理論だけではなく社会での活用例を交えた結果、学生の理解を深めることになった。講義科目で学んだ事項を基に、企業との連携によるPBL授業（社会情報学実習1・2）では、実社会の様々な問題をテーマとして取り上げ、データ・AI活用の企画・実践・評価を学ぶことができた。プログラムを通じて、情報学部の人材育成の目標である「Society5.0の実現に向けたクリエイティブな先端IT技術者」としての数理・データサイエンス・AIの応用基礎力を修得させることが継続的に行えた。
学生アンケート等を通じた学生の内容理解度	該当科目の授業評価アンケートを集計した結果、「この授業を受けることで、自分の知識や考えが深まりましたか」という設問の回答は、『非常にそう思う』が28.3%、『そう思う』が48.8%、『どちらとも言えない』が17.8%、『そう思わない』が3.8%、『全くそう思わない』が1.7%であった。ポジティブな回答が70%を超えており、授業の理解度は高いと考える。
履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	入学定員330名に対して修了者が63名（令和4年度入学）、25名（令和5年度入学）、86名見込み（令和6年度入学）とバラつきがある。この理由は情報学部内の選択科目である「データリテラシー入門」「機械学習概論」が含まれてことによるが、学生がこのプログラムの趣旨を理解し、必要性を感じることで、選択科目であっても履修者数・割合が向上すると考えている。履修指導・オリエンテーション時には、このプログラムの趣旨等を丁寧に説明し、履修者割合100%を目指したい。

以上